

機械器具 9 医療用エックス線装置及び医療用エックス線装置用エックス線管  
一般医療機器 特定保守管理医療機器（設置） 汎用 X 線診断装置用非電動式患者台 40654000

## エマージェンシー・ストレッチャー（KK-8020B）

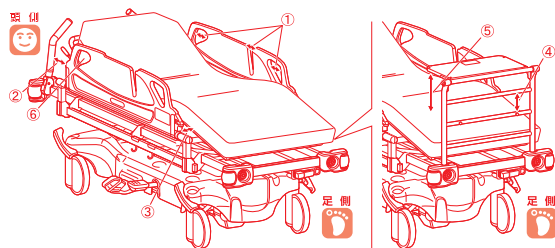
### 【警告】

#### ●すき間に注意してください

〔ストレッチャーやトランスファーボードにはすき間があります。これらのすき間に身体の一部（特に頭や首など）がはさまれて、けがをするおそれがあります。〕

- ①トランスファーボードの内部のすき間
  - ②トランスファーボードと搬送ハンドルのすき間
  - ③トランスファーボードとマットレスのすき間（幅方向）
  - ④記録台付フットボード（KC-860：別売 以下、ボード）内部のすき間
  - ⑤ボードとマットレスのすき間
  - ⑥あがっているボトムとボード・トランスファーボード・マットレスなどのすき間
  - ⑦ストレッチャーと壁やものとのすき間
- ※④⑤はボード取付け時のみです。

※図は一例です。



### 【禁忌・禁止】

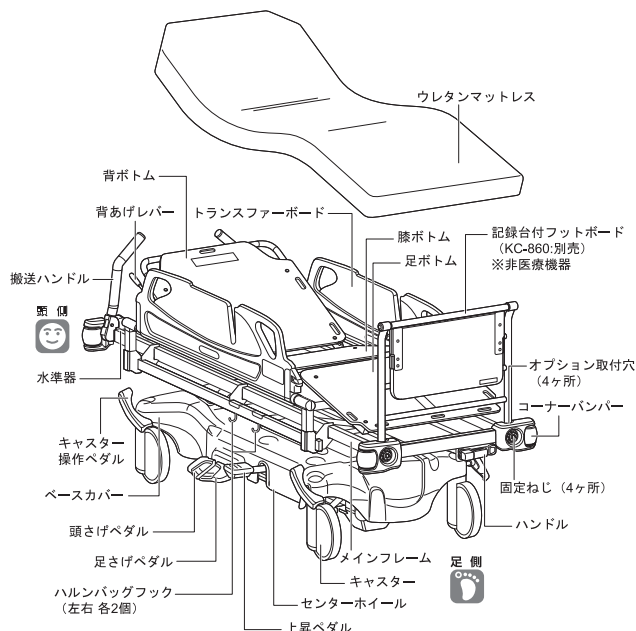
#### ●小児（12 歳以下）には使用しないでください

〔本製品は小児（12 歳以下）向けには設計されておりません。トランスファーボードなどのすき間に身体の一部がはさまれて、けがをするおそれがあります。〕

〔トランスファーボードをあげていても、すき間から転落してけがをするおそれがあります。〕

### 【形状・構造及び原理等】

#### ■各部の名称



#### ■主材料

|            |                   |
|------------|-------------------|
| フレーム       | ・・・ スチール、アルミニウム   |
| ボトム        | ・・・ フェノール樹脂版      |
| トランスファーボード | ・・・ ポリプロピレン(PP)   |
| ベースカバー     | ・・・ ポリプロピレン(PP)   |
| マットレス(側地)  | ・・・ ポリエステル+ポリウレタン |
| マットレス(中芯)  | ・・・ ウレタンフォーム      |

#### ■動作原理

- 背あげ  
ガススプリングの伸縮によるリンク機構
- 膝あげ  
手動アクチュエーターの伸縮によるリンク機構
- 高さ調節/ストレッチャーの傾斜  
油圧シリンダの伸縮による

#### 【使用目的又は効果】

汎用 X 線装置を必要とする一般／平面画像の撮影や特別な診断撮影の場合に患者の体位を保持し、X 線撮影を行うための台

## 【使用方法等】

- 取扱説明書に記載されている方法で設置してください。
- 組立方法および記載されていない使用方法などについては、取扱説明書をご参照の上行ってください。

### 1) 背あげ

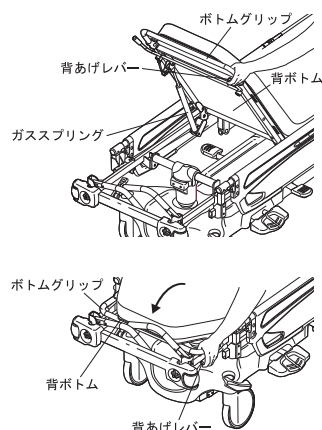
■背ボトムは背あげレバーを握ることにより、上下させることができます。

#### <あげかた>

背あげレバーとボトムグリップを一緒に握り、背ボトムを引きあげてください。背あげレバーから手を離すと、その位置で固定されます。

#### <さげかた>

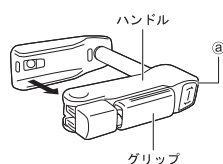
背ボトムを手で支えながら、背あげレバーを握り、背ボトムをさげてください。背あげレバーから手を離すと、その位置で固定されます。



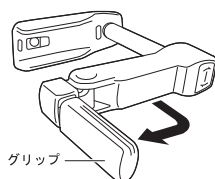
### 2) 膝あげ

■膝あげの操作は、足側に取付けられたハンドルで行います。

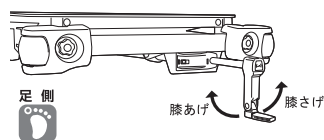
①ハンドルの③の部分を持って、止まるまで手前に引き出してください。



②グリップを垂直に起こし、グリップを握ってハンドルを回してください。



- ハンドルを時計回りに回すと、膝あげが行えます。
- ハンドルを反時計回りに回すと、膝さがげが行えます。



### 3) 高さ調節

■ペダルを操作することにより、ストレッチャーの高さを調節することができます。

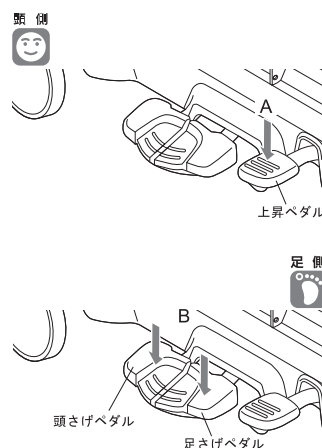
#### <あげかた>

右図Aの上昇ペダルを繰り返し踏み込んでください。

#### <さげかた>

右図Bの頭さげペダルおよび足さげペダルを2本同時に踏み込んでください。

※ペダル操作時に異音がある際は、高さを最大高さにした後、上昇ペダルを数回踏み込んでください。



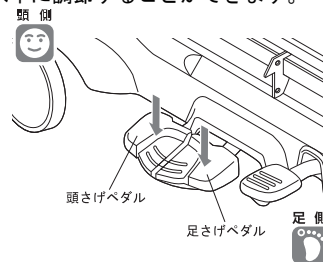
### 4) 傾斜

■頭さげペダル・足さげペダルを操作することにより、ストレッチャーの傾斜角度を調節することができます。また、高さ調節の際に、頭側と足側の高さがずれてしまった場合に、ストレッチャーを水平に調節することができます。

#### <ペダル操作>

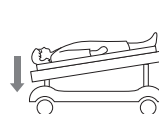
ストレッチャーの高さが一番上まであがっていることを確認してください。ストレッチャーが適切な角度になるまで頭さげペダルまたは足さげペダルを踏み込んだままにしてください。ペダルから足を離すとその位置で止まります。

※患者の体重やフレームの角度によっては、フレームがさがりにくい場合があります。さがりにくい場合は、ボトムをさげ方向に強く押してください。



#### ●頭側操作

頭さげペダルを踏み込む  
⇒ さがる



#### ●足側操作

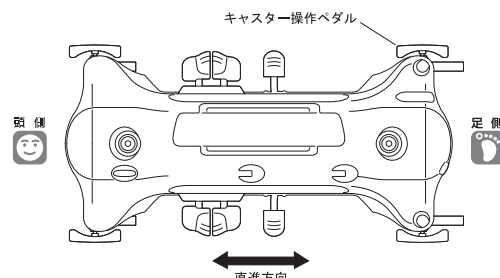
足さげペダルを踏み込む  
⇒ さがる



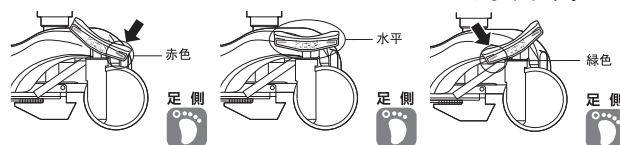
### 5) キャスター

#### ■トータルロックシステム

頭側と足側にあるキャスター操作ペダルを操作して、次のいずれかに設定できます。



- ①4 輪固定 (ロック) 赤色のペダルを踏み込むと4 輪すべての首ふりと回転がロックされます。
- ②4 輪解除 (フリー) ペダルを水平に戻すとロックが解除され、4 輪すべての首ふりと回転が可能になります。
- ③センターホイール ON (直進) 緑色のペダルを踏み込むとセンターホイールが接地します。直進性が向上し、搬送しやすくなります。



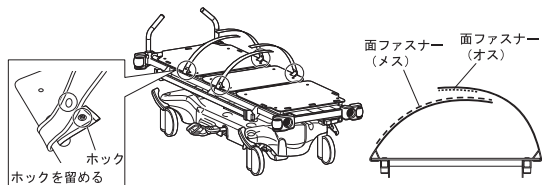
取扱説明書を必ずご参照ください。

## 6) 患者固定ベルト

■患者固定ベルトは、患者の転落予防のため、患者を固定するためのものです。患者を搬送するときは、必ず患者固定ベルト（2組）をしっかりと固定して、トランスファーボードをあげてください。

### ＜ボトムへの固定方法＞

- 図のように指定の位置に患者固定ベルトを通し、フックを留めてください。このとき、患者固定ベルトの向きに注意し、面ファスナー（オス）と面ファスナー（メス）をしっかりと貼りあわせて固定してください。



### ＜患者の固定方法＞

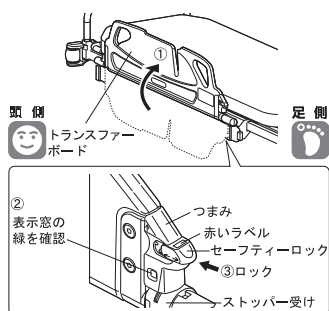
- ①患者固定ベルトがボトムに固定されていることを確認してください。
- ②患者の上で、患者固定ベルトがたるまないように、面ファスナーを貼り合わせてください。

## 7) トランスファーボード

■トランスファーボードは患者の転落予防、および患者を移乗させるときに、ベッドとの橋渡しとして使用できます。また、水平状態に固定することで、上肢台として使用することができます。

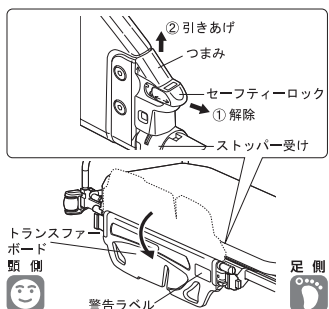
### ＜あげかた＞

- ①さがっているトランスファーボードを右図の方向にゆっくりと引きあげてください。一番上まであげると、つまみがさがりストッパーが掛かります。
- ②ストッパーが確実に掛かっていること（表示窓が緑）を確認してください。
- ③セーフティーロックを➡（トランスファーボード側）方向に赤いラベルが見えなくなるまで押し込み、確実にロックしてください。



### ＜下げかた＞

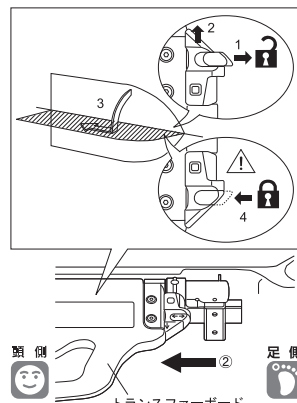
- ①セーフティーロックを解除してください。
- ②つまみを引きあげながら、トランスファーボードをゆっくりと降ろしてください。



### ＜水平固定するとき＞

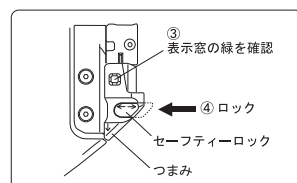
#### 【あがっている状態からの水平固定】

- ①セーフティーロックを解除し、つまみを引きあげながら、トランスファーボードを水平までさげてください。
- ②トランスファーボードを水平に保ちながら➡方向に動かしてください。つまみがさがりストッパーが掛かります。
- ③ストッパーが確実に掛かっていること（表示窓が緑）を確認してください。
- ④セーフティーロックを➡（トランスファーボード側）方向に押し込み、確実にロックしてください。



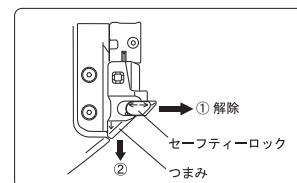
#### 【さがっている状態からの水平固定】

- ①トランスファーボードをゆっくりと、水平まで引きあげてください。
- ②トランスファーボードを水平に保ちながら➡方向に動かしてください。つまみがさがりストッパーが掛かります。
- ③ストッパーが確実に掛かっていること（表示窓が緑）を確認してください。
- ④セーフティーロックを➡（トランスファーボード側）方向に押し込み、確実にロックしてください。



### ＜水平固定を解除するとき＞

- ①セーフティーロックを解除してください。
- ②つまみを矢印方向に引いてください。

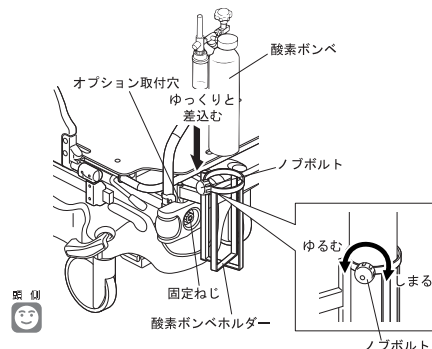


## 8) 酸素ポンベホルダー

■ 付属の酸素ポンベホルダーを4隅のオプション取付穴に取付けることで、酸素ポンベが使用できます。

＜取付方法＞

- ① 酸素ポンベホルダーをストレッチャー4隅のオプション取付穴に差込んでください。
- ② ストレッチャー4隅についている固定ねじを時計回りに回し、しっかりと固定してください。
- ③ 酸素ポンベホルダーのノブポルトを反時計回りに回し、ゆるめてください。
- ④ 酸素ポンベを酸素ポンベホルダーにゆっくりと差込み、ノブポルトを時計回りに回して、しっかりと固定してください。
- ⑤ 酸素ポンベを軽くゆすり、ぐらつかないことを確認してください。



※ 付属のアダプターを4隅のオプション取付穴に取付けることで、1箇所のオプション取付穴で、酸素ポンベホルダーとIVポールを同時に使用することができます。

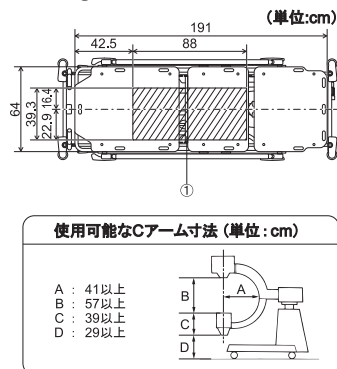
## 9) X線撮影

■ CアームによるX線テレビ撮影が下図斜線の範囲で可能です。

※ ストレッチャーのフレームが①の部分に写りますのでご注意ください。

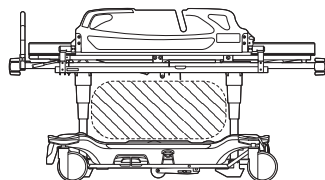
※ 傾斜（トレンデンバーク・リバーストレンデンバーク）状態では、CアームによるX線テレビ撮影ができません。

※ Cアームの外形寸法はメーカーによって異なりますので、条件に合ったものをご使用ください。



### 【CアームによるX線テレビ撮影方法】

- ① ストレッチャーの高さを最高位にして、Cアーム挿入側のトランスファーボードをあげてください。
- ② Cアームの射影機をメインフレームとベースカバーの間（右図の斜線部）に挿入してください。
- ③ 撮影部位にあわせ、Cアームの位置を調整してください。

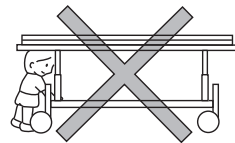


※ 撮影時、トランスファーボードが障害となる場合は、Cアームと反対側のトランスファーボードをあげてください。

### ＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- 身体の一部がすき間に入った状態で、ストレッチャーの操作をしないでください  
[すき間にはさまれて、けがをするおそれがあります。]

- ストレッチャーを操作する際は、周りの人やもの、患者につながっているラインに注意してください。  
[手・足などが入ったまま動かすと、ストレッチャーの可動部分（背ボトムなど）とのすき間にはさまれて、けがをするおそれがあります。]



- ボトムの角度やストレッチャーの高さを調節する際やトランスファーボードをあげ・さげる際は、患者の状態に注意してください  
[患者がボトムの角度やストレッチャーの高さ調節中やトランスファーボードをあげ・さげる際に動くと、ストレッチャーから転落したり、すき間にはさまれて、けがをするおそれがあります。]

- トランスファーボードなどとマットレスのすき間にチューブ（ドレーン）などがはさまれないように注意してください  
[チューブ（ドレーン）などが抜けたり、つぶれたりするおそれがあります。]

- ストレッチャーを移動させるとき以外は、キャスターにロックを掛けてください  
[患者の乗り降り、移乗や背あげ等の操作時にストレッチャーが動き、患者が転落するなどして、けがをするおそれがあります。]

- トレンデンバーク・リバーストレンデンバークをする場合は、マットレスをボトムに取付け、患者固定ベルトで患者を固定してください  
[患者がストレッチャーから滑り落ちて、けがをするおそれがあります。]



- 患者固定ベルトで患者を固定した状態で、背あげの操作を行わないでください  
[患者の身体が締め付けられてけがをするおそれがあります。]

- トランスファーボードを水平固定したまま患者を移乗させないでください  
[転落・転倒してけがをするおそれがあります。]



- 足ボトムの角度調節は2人以上でストレッチャーの両側から行ってください。足ボトムとメインフレームの間に手などはさまれて、けがをするおそれがあります。



## 【使用上の注意】

### ＜重要な基本的注意＞

- トランスファーボードをあげた状態でもストレッチャーからの転落に十分注意してください  
[トランスファーボードを使用している、すき間から転落してけがをするおそれがあります。]

- 膝ボトム端部に腰掛けないでください

[ストレッチャーが傾斜し、転落してけがをするおそれがあります。]



- 背あげレバーや搬送ハンドルなどの突起物に衣類などが絡まないように注意してください  
[ストレッチャーの乗り降りなどの際に転落・転倒して、けがをするおそれがあります。]  
[衣類などが絡まった状態でストレッチャーを操作すると、衣類などが引っ張られるなどして、けがをするおそれがあります。]

- ストレッチャーに安全動作荷重を超える荷重を加えないでください  
[ストレッチャーが破損・変形して、けがをするおそれがあります。このストレッチャーの安全動作荷重は2450N（250kgf）です。安全動作荷重は、ストレッチャーを安全に使用できる荷重であり、利用者体重とマットレスやオプションなどの付帯物の合計荷重です。]

## 【保管方法及び有効期間等】

### 1) 保管方法

- ・ 背ボトム・膝ボトムを水平にしてください。
- ・ 高さを最低位置までさげてください。
- ・ ストレッチャーの上にはウレタンマットレス以外のものを載せないでください。
- ・ ウレタンマットレスの上には何も載せないでください。
- ・ 高温・多湿・低温・乾燥・ほこりの多い場所を避けてください。  
温度：-10～50℃、湿度：30～90%RH、大気圧 700～1060hPa の環境で保管してください。
- ・ ストレッチャーは壁に立てかけたりせず、水平なゆかに水平のまま保管してください。

### 2) 耐用期間

8年 [自己認証（当社データ）による]  
ただし、キャスターなどの消耗部品は除く

## 【保守・点検に係る事項】

### 1) 点 検

＜使用者による保守点検事項＞

患者をストレッチャーに乗せて使用する前に、取扱説明書に記載されている点検項目をチェックして、異常の無いことを確認してください。異常が認められた場合や詳しい点検をご希望される場合は、販売店またはパラテクノコールセンター（取扱説明書参照）までお問い合わせください。

### ＜業者による保守点検事項＞

- 定められた点検期間ごとに、修理業の許可を得た業者へ点検をご依頼ください。

点検頻度（時期）：年1回

摺動部、締結部、キャスターなどの点検

※当該製品の修理を行うには、医薬品医療機器等法に基づく修理業の許可が必要です。

※業者による保守点検の詳細は、パラテクノコールセンター（取扱説明書参照）までご連絡ください。

## 2) お手入れ

### ■ストレッチャー本体

#### ●汚れを落とす場合

- ・下記①～③の手順で行ってください。

- ①水で薄めた中性洗剤にひたした布をよくしぼって拭いてください。
- ②水でひたした布をよくしぼって、残った洗剤分を拭き取ってください。
- ③乾いた布で残った水分を拭き取ってください。

#### ●水洗いをする場合

- ・下記①～④の手順で行ってください。

- ①ボトムを水平にし、ストレッチャーの高さを最低位にしてください。
- ②トランスファーボードをさげてください。
- ③水をかけて、汚れを落としてください。
- ④乾いた布で残った水分を拭き取ってください。

#### ●消毒する場合

- ・必ず下記の消毒剤を指定の濃度で、消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってご使用ください。

- 76.9 ～ 81.4% : 消毒用エタノール  
0.05 ～ 0.2% : 塩化ベンザルコニウム (オスバンなど)  
0.05 ～ 0.2% : 塩化ベンゼトニウム (ハイアミンなど)  
0.05% : グルコン酸クロルヘキシジン (ヒピテンなど)  
0.02 ～ 0.05% : 次亜塩素酸ナトリウム (ミルトンなど)

### ■ウレタンマットレス

#### <清拭方法>

- ・マットレスが汚れたり、使用される方が替わる際は、必ずマットレスの全面を下記の手順 (①～④) に従ってお手入れしてください。このとき、マットレスを折り曲げないように注意してください。

- ①汚物があれば除去してください。(血液、便など)
- ②石鹼水 (市販の石鹼、中性洗剤などを水で薄めたもの) でマットレスの表面 (ひょうめん) の側地を拭き、汚れを落としてください。
- ③消毒剤でマットレスの表面 (ひょうめん) の側地を清拭消毒してください。  
必ず下記の消毒剤を、指定の濃度で消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってご使用ください。  
0.05～0.2% : 塩化ベンザルコニウム (オスバンなど)  
0.05～0.2% : 塩化ベンゼトニウム (ハイアミンなど)  
0.05% : グルコン酸クロルヘキシジン (ヒピテンなど)  
0.1～0.5% : 次亜塩素酸ナトリウム (ピューラックスなど)

- ④ストレッチャーの上などで自然乾燥させてください。また、天日干しはしないでください。

※マットレスは定期的に、清拭消毒してください。

※マットレスの洗濯は行わないでください。

※中芯は濡らさないように注意してください。

※オゾン殺菌機、オートクレーブ滅菌器などには対応しておりません。

## \*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

### 1) 製造販売業者

#### ■パラマウントベッド株式会社

☎(0475)81-3000(千葉工場)

### 2) 販売業者

#### <パラマウントベッド株式会社>

##### □本社

〒136-8670 東京都江東区東砂 2-14-5 東京支店

☎(03)3648-1171(代)

##### □札幌支店

〒060-0062 札幌市中央区南 2 条西 13-318-11

☎(011)271-1181(代)

##### □仙台支店

〒980-0013 仙台市青葉区花京院 2-1-65 花京院プラザ 4 階

☎(022)217-7311(代)

##### □さいたま支店

〒338-0001 さいたま市中央区上落合 9-4-7

☎(048)852-0707(代)

##### □横浜支店

〒194-0004 東京都町田市鶴間 5-3-33

☎(042)795-8800(代)

##### □名古屋支店

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-20-17

☎(052)963-0600(代)

##### □大阪支店

〒550-0001 大阪市西区土佐堀 2-3-33

☎(06)6443-8791(代)

##### □広島支店

〒733-0011 広島市西区横川町 3-8-5

☎(082)293-1311(代)

##### □福岡支店

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-14-20

☎(092)461-1131(代)